

特集 消化器内科

かかりつけ医との
シームレスな
連携を目指す

INTERVIEW

消化器内科 内科系診療部長
和泉 才伸

消化器内科 医師
空地 真依



姫路医療センター消化器内科 若手医師紹介

若手のホープ
Hope
消化器内科 医師
そらち まい
未来の名医 空地 真依

ESDについての学びや
最新のトレンドを
科内にフィードバック

トレーニングデバイスや指導体制が充実

当院の消化器内科の特色は、消化管・肝・胆膵の分野に分かれず全員がどんな疾患でも診療できるようにいろいろな分野の症例や処置を経験していることです。トレーニングデバイスや指導体制が充実しており開業医の先生方からご紹介いただいた症例も十分にあるのでめぐまれた環境です。私自身主にESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)について学会での学びを科内にフィードバックする役割を担いつつ、胆膵領域で海外の学会発表の抄録を登録したところです。

内視鏡治療のポイントは
早期発見!

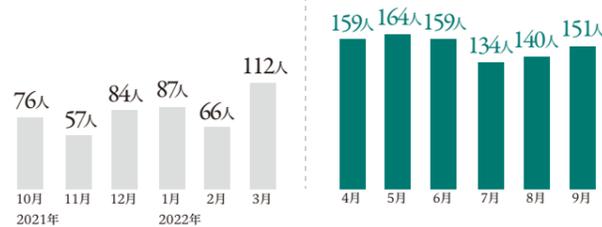


完治が望める大変優れた内視鏡治療

私が力を入れているESDは、低侵襲で、処置時間、入院期間いずれも短く、完治が望める大変優れた内視鏡治療です。けれども一度、60代の患者さんで、胃小弯巨大な症例では処置に長時間を要したことがありました。手術なら全摘でしたが、合併症なく胃を残して治癒が得られました。ESDの可能性を実感した出来事です。

ESDは確立された手技ではありますが、牽引や切除後の潰瘍底の縫縮をするかどうか、その方法についてなど課題もありますので、学会などで現在のトレンドや新しいデバイスについて勉強し日々の治療に生かしています。今後は当院からも治療や手技について有用な発表をすることを目標として、消化器内科全体のますますのレベルアップにつなげ、地域医療にも貢献したいと考えています。

ホットライン導入前・導入後で
比較した患者数の推移



ホットライン導入後



独立行政法人 国立病院機構 姫路医療センター
National Hospital Organization HIMEJI Medical Center
〒670-8520 兵庫県姫路市本町68番地 Tel:079-225-3211
<https://himeji.hosp.go.jp/>



WEBサイト

姫望 Vol.1 表紙説明
姫路城をバックに
姫路医療センター屋上で撮影



広報誌「姫望」
名称説明

「姫望」という名称は職員から案を公募し、投票の上決定しました。案を出していただいた職員の理由は以下の通りです。「姫路医療センターから、地域医療機関に向けて当院の魅力が伝わり、患者さんを姫路医療センターに是非紹介したい。」と思ってもらえるような広報誌をお届けする事が出来るように…。と願い(望み)を込めました。

特集

消化器内科

消化器系がんの最終拠点病院として

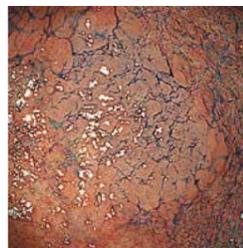
消化器内科の最大の使命は**早期がんの発見**と
最新の内視鏡治療を最善の状態を提供することです

Cooperation 内科・外科の連携

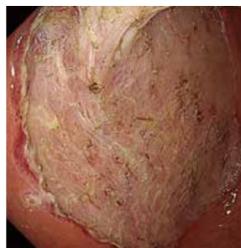
「消化器センター」を開設
消化器外科と綿密に連携

「姫路医療センター」は、人口80万人を超える播磨姫路医療圏の最終拠点病院です。消化器内科としてもそのことを強く認識し、我々の使命を果たすべく、消化器外科とともに「消化器センター」を開設。その名称の通りに、垣根なく、綿密に連携を行い、患者さんにとって最適・最善の治療を提供しています。それは救急診療においても変わることはありません。たとえば消化器内科で救急の患者さんを受け入れ、もし腹腔鏡手術が必要であればすぐに外科の消化器外科で受け入れ、外科的手術の必要がないと判断されれば内科へと、私たちは電話1本でつながり、速やかにミニカンファレンスを行います。

このように「消化器センター」がしっかりと機能していることから、開業医の先生方には、「患者さんの紹介は内科外科どちらでもいいです。消化器センター宛てでもいいんですよ」と繰り返し申し上げてきました。消化器内科・外科はほぼ一体化しています。とにかく患者さんを送っていただいたなら、「必ず適切な科が責任を持って診ます」ということを、この場を借りて改めてお伝えしたいと思います。



ESD前観察



ESD後潰瘍



消化器内科 内科系診療部長
いずみ としのぶ

和泉 才伸

ESD
患者紹介率 **54.8%**

DATA

内視鏡治療・検査の実績 [2023年度実績]

ESD 治療：124 件

上部内視鏡検査：3066件

下部内視鏡検査：1755件

超音波内視鏡検査：326件

EUS-FNA：41件

ERCP：326件

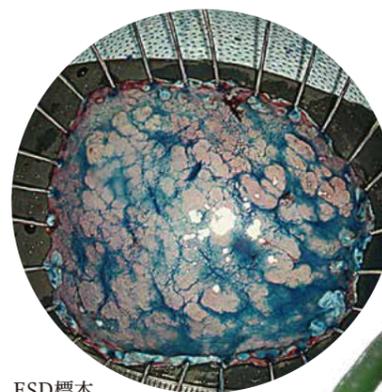
消化器内科の学会活動実績 [2024年実績]

国内学会発表：6 件

原著論文：胃と食道の上皮下病変に対するボーリング生検についての検討

日本消化器病学会雑誌8月号(筆頭著者 水野翔馬)

Asian-Pacific Digestive Week (11月インドネシア、バリ)に2演題が採択決定



ESD標本

ESD 内視鏡治療

ESDで高い実績

胃腸の早期がん、咽頭がんでも県下有数の症例数

消化器内科としては、がんを早期発見し、転移のない早期がんにおいて内視鏡治療を行うことが最大の役割です。特に食道・胃・大腸など胃腸のがんにおいてはESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)が世界的に主流となっていますが、当科でも非常に安定した成績、少ない合併症を実現しています。ESDは従来の内視鏡治療に比べてより広い病変を切り取ることができ、患者さんの体への負担が少ないのが特徴。ESDを受けられたほぼすべての患者さんが回復されて元気に日常生活を送っておられるのは、専門医として何よりうれしいことです。一方でそれに慢心することなく、細かなものであっても最新の器具を導入、最新の技術へとキャッチアップし、常に、今できる最善の治療を実践しています。まだまだ先進的な領域ですが、咽頭がんに対しても耳鼻科と合同でESDを実施しており、その症例数は県下でも有数です。



ESDナイフ



早期がんの発見と最新の内視鏡治療

開業医の先生からの紹介のなかには、「こんな見つけづらいうんをよく診断できたな」と思うことが多々あります。先生方が早期発見に向けて丁寧に検査をされている、その努力を日々感じています。今では胃腸のごく早期のがんは治る病気ですが、それでも、内視鏡治療ののち、残念ながら2度、3度と罹患される患者さんもおられます。そうした場合も、先生方のご尽力のおかげで、早期に見つかり、内視鏡治療でまた社会復帰をされるという事例をいくつも見てきました。これからも、先生方と当科の良い循環を保っていきたいと思います。

Information Sharing 情報共有

地域で患者さんを守るため
開業医の先生方との情報共有を重視

現在の医療はかかりつけ医療機関をハブとして基幹病院の専門医が連携し展開されています。その情報網が乱れることは患者さんにとって不利益となります。紹介元とは別にかかりつけの先生がおられる場合、できるかぎりかかりつけの先生にも情報提供を心掛けています。その情報も参考にさせていただき、気になることがあれば躊躇することなく当科へと橋渡しをしていただいで、早期発見・治療への確かな道筋をつけていただければ幸いです。



内視鏡トレーニング